

「植村直己冒険賞」受賞者決定

## 南極点無補給単独徒歩到達



荻田泰永さん

ogita yasnaga



2月16日、植村直己さんの母校の明治大学紫紺館（東京都千代田区）で、2017「植村直己冒険賞」受賞者発表の会見を行いました。

今回は、2017年に日本人が挑んだ220件の冒険行の中から、南極点に単独で歩いて到達した荻田泰永さんが受賞しました。行程の途中、外部からの補給を一切受けない「無補給」での到達は、日本人初の快挙でした。

荻田さんは、2000年に大場満郎さん（1999年）植村直己冒険賞（受賞者）が主宰した「北磁極を目指す冒険ウォーク」に参加したことから、北極に対する好奇心をかき立てられ、翌2001年から15回にわたって北極行を経験し、9km以上移動してきました。今回、地球の両極を歩き、北極とは全く違う環境を持つ南極の新たな世界を体験してみたいという願望から、

### 荻田泰永さんの喜びの声

この度は植村直己冒険賞という偉大な賞をいただきありがとうございます。

私は18年にわたり北極を中心に冒険をしてきました。植村さんが旅をした地域と重なり、行く先々で今でも植村さんのことを現地のイヌイットが語る姿を間近に見てきました。ある人は懐かしげに語り、またある人はたった1人で旅をした植村さんへの尊敬の念を持って語ります。

私はリアルタイムには植村さんを見ていません。1984年に植村さんがアラスカのデナリ（マッキンリー）で行方不明になった時、私は6歳でした。成長していく中で植村さんのことは名前くらいしか知らなかったかもしれません。

しかし、自分が極地を旅するようになって、私がお世話になった人がかつて植村さんもお世話していたり、そこで直接語られる思い出話に触れる度に、植村さんが北極圏を冒険して40年が経過した今でも人々の口の端に上ることに驚きを覚えています。そして、植村さんのような先輩諸氏が築いてくれた信頼関係のおかげで、現地の人々が我々を歓迎してくれているのだと時代を経て感謝しています。

6月2日には豊岡での授賞式に伺います。豊岡の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

挑戦しました。

東京での会見の様子は、植村直己さんの母校の府中小学校に中継され、参加した6年生児童を代表して小川政輝君が、荻田さんにお祝いのメッセージを届けました。

なお、本賞の授賞式は、6

月2日（土）に日高文化体育館で行います。冒険賞の授与や荻田さんの講演も行われますので、ぜひ、お越しください。

《問合せ》植村直己冒険館

☎ 44-11515



萩田泰永さん(40)

カナダ北極圏やグリーンランド、北極海を中心に、主に単独歩行による冒険行を実施。2000年から2017年までの18年間に15回の北極行を経験し、9,000km以上移動し、国内外のメディアからも注目されている、日本唯一の「北極冒険家」。

賞歴 2011年 2011ファウスト冒険家賞  
著作 『北極男』

南極は、全体が千m〜2千mの分厚い氷に覆われた大陸です。南極点は南極大陸のほぼ真ん中に位置し、標高2800mの高地です。南半球に位置する南極の11月は夏。しかし、ほとんどの地域で平均気温が0度を超えることはありません。萩田さんの挑戦の時は最低気温がマイナス23度まで下がったそうです。萩田さんは夏とは思えない気温の中、南極特有の「カタバ風」と呼ばれる内陸から吹き降ろす強風に立ち向かい、

南極点を目指しました。萩田さんは、2000年、22歳の時、海外旅行どころかアウトドアの経験も全くない状態で、冒険家・大場満郎さんが主宰したカナダ北極圏の冒険行に参加し、海氷上700kmを35日かけて歩く経験をしました。2001年から1人で何度も北極を訪れるうちに、次第にそこに住むイヌイットの人々の文化や歴史、野生動物に強い関心を持ち、好奇心をかき立てられるようになりました。

## 南極の地形と気候

### 「北極冒険家」萩田泰永

### なぜ南極へ？

それ以来、18年間に15回、北極圏に行き、9km以上を自分の足で歩いてきました。

北極点への挑戦を続ける中で、萩田さんは地球の両極点を自分の足で歩いてみたいという願望を膨らませていきました。南極への挑戦も北極点への挑戦と同様に、無補給・

単独で歩いて行く。日本人がまだ成し遂げたことのない冒

険を達成することで、北極点到達へのステップにしたいと考えたのです。

また、北極とは全く違った環境を体験し、新鮮な感動や新たな楽しみを感じたいという願望が、萩田さんの挑戦を後押ししました。

### 植村直己の果たせなかった「両極点に立つ」夢への挑戦

萩田さんの最終目標は「北極点無補給単独徒歩到達」。

達成すれば、両極点に無補給・単独で歩いて到達した、最初の人となります。地球温暖化の影響で北極圏でも氷の張らない期間が長くなっている海域が増えており、萩田さんの挑戦は年々困難な状況になっています。しかし、植村直己さんが抱き続けた「両極点に立つ」という夢を萩田さんは抱き続けています。そんな萩田さんに、これからもエールを送り続けていきたいと思います。



①



④



②



③

①南極点に到達！②一面の雪原とそびえ立つ山々  
③真っ白な大地を歩く萩田さん④強風で削られた雪原